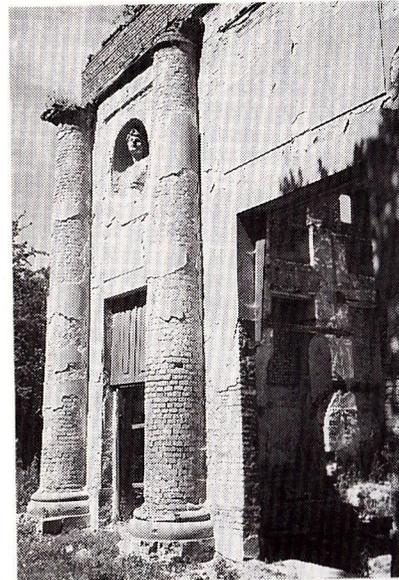




ラインスベルク宮殿



宮殿つき劇場の跡

審査員を一、二名日本に派遣します。

― 音楽アカデミーのある廷臣宿舎だった建物の後ろに、
廃虚になっているところがありますが、あれは昔は
劇場だったのでありませんか。

あれは昔、宮殿つき劇場でした。野外でのリハーサル
は天候に左右されるので、といってもそれだけの理由で
はありませんが、あの廃虚を再建したいと考えています。
第一段階はもう始まっていますので、宮殿つき劇場が早
く再オープンし、リハーサルだけでなく劇場として、毎
日プログラムを変えて使えればよいと思っています。『恋
の女庭師』を最初の上演演目にしたのは、理由あつて
のことで、このオペラが忘れられた廃虚のようなもので
あつた時期に、ゼンパー・オペラのアンサンブルが上演
して、再び今日のような脚光を浴びるようになったとい
う経緯があるのです。

― ますます意欲的な活動をなさって、あなたのプロジ
ェクトが、成功をおさめられることをお祈りいたし
ます。ありがとうございます。

(一九九一年七月二十七日)

Dr. ジークマール・ナーザー

ベルリン国立博物館
東アジアコレクション館長

― 昨年夏の会報で、プロイセン文化財団の博物館とベ
ルリン国立博物館の「再統合」が計画されているこ
とを伝えました。現在までに、具体的にはどんな措
置に着手し、どんなことを計画中ですか。

ベルリンの分割、二つに分かれて存在している博物館
は約十四あり、こうした博物館をまとめるために新しい
コンセプトが決められました。ここで重要なのは、次の
三点です。

- ① 博物館の島は考古学の本拠地とする。(旧博物館・新
博物館・ペルガモン博物館)
- ② ボーデ博物館とケンパープラッツにはヨーロッパの
美術が集まる。(ナシヨナル・ギャラリーはもともと
ある場所に残る。)
- ③ ダーレムにはヨーロッパ外の美術と世界中の文化を
展示する。

― 日本人は、ベルリンでかならずしも東アジアの芸術
を見たいとは思わないですから、考古学やヨーロッパ

パの美術といった、日本人観光客にとっての一番の
魅力が、市の中心に集まり、市内を散歩しながら、
または市内観光で訪れるのに便利なのは嬉しいこと
ですね。

もちろんこのように大がかりな組み替えには、どれか
を優先して、自由になる予算を有効に使えるようにする
必要があります。ベルリンの博物館の統合を目に見える
形にする為には、もちろんまず、市の中心地に着目し、
博物館の島の再建、特に現在のエジプト博物館のための
新博物館の再建、ケンパープラッツに、統合される鋼版
画収蔵室のための建物の新築(これは、統合が完了した
という最初の象徴として、一九九二年七月に完成予定)
が計画され、そしてさらに一九九三年には、絵画館の建
物が完成する予定です。こうなると、ダーレムの各博物
館に使える予算は、もうほとんど残っていないことにな
ります。ソニーから、東アジア博物館を新築しようとい
う申し出がありました。プロイセン文化財団は、財団
が事後負担を持つことになるので、この申し出を断わ
ってしまいました。遠い将来に、ダーレムには、博物館
新築が計画されています。つまり、ダーレムには、巨大な
博物館の建物ができ、そこには、「世界の文化」が一つ屋
根の下に集まるのです。

―あまり喜んでいらっしやらないようなお顔つきですね。

一つには、こういうことがあります。確かに、どこかに重点を置くのは正しいことです。しかし、博物館の収蔵品のうち、この大規模なコンセプトに組み入れるのが難しいようなもの、例えば東アジアの美術に対する処置には賛成できません。

第二に、私は、大博物館主義の方向はとらず、多種多様な小規模で、簡単に全体を見渡せるような博物館がいくつもあった方が、ちょうどベルリンのような都市にふさわしいのではないかと、すでに定着した国際的な博物館論に与しているのです。

― 具体的にはどんな措置がとられるのか、また、あなたの活動分野で特に問題になることがありましたら、お話し下さい。

我々の東アジアコレクションは、ベルガモン博物館から出て行く最初のコレクションになり、これが大体一九九一年末ですが、その後、民族学博物館、一九九二年六月には、銅版画収蔵室の引越しがあります。私のところでは館員が解雇されずに済み、全員採用されるのはありがたいことです。非常に異なった性格を持っていた博物

館をまとめることができるのかについては、ずいぶん議論が行われました。例えばターレムには、東アジア美術館と民族学博物館の東アジア部門があります。一方我々の方では、この二つの部門が一つになっていて、我々もドイツ民主共和国という条件のもとで可能な限り、文化的な視点で収集を行ない、しかし同時に、道具の方の展示も行なったのです。例えば、書道展を開催した時には、東側には民族学博物館がなかったので、筆や硯も併せて展示しました。将来は、民族学博物館と緊密に協力しつつ展覧会の準備を進めるという合意ができています。

そうなると、例えば、来訪者が、一方では美術を鑑賞し、一方ではそれを民族的視点で捉えることができる、というふうになるかもしれません。材料は十分揃っています。東側に五千点の収蔵品、西側には同じ数の収蔵品に加えて、一万点の中国及び日本の版画があります。

― 壁の崩壊後、それ以前より楽になったことはありますか。

これまでお互いに持っていたものを選び分けるのに、はつきりその出所の決められなかった沢山の収蔵品の分類ができるようになりました。また、ご存知のように、東アジア美術館が第二次世界大戦前に持っていた沢山のコレクションの約85%が、戦後行方不明になっています。

「ヨーロッパの行方不明の美術品」組織の協力をあおいで、戦前のベルリンのおもだったコレクションがどこへ行つたのかを調査しなければなりません。現在は、これらのコレクションを買い戻す財政的条件がよくなりま

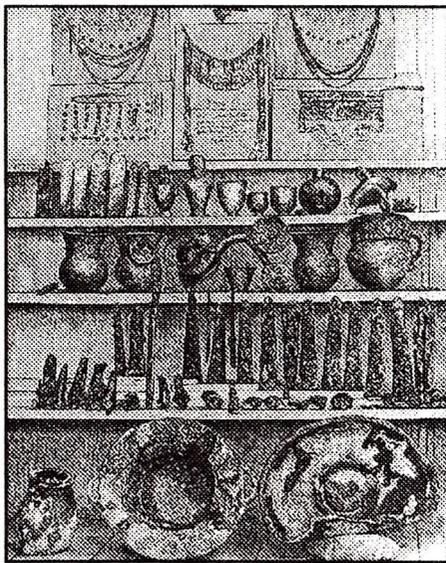
した。有力な手掛かりも見つかっています。三十四の木箱が、西（エルベ川沿いにあるシーネベック）へ運ばれて、現在はアメリカにあるに違いないという資料を見つけたのです。第二の足跡は、ソ連へ向かいました。これまで、シュリーマンの発掘したプリアモスの財宝と東アジアコレクションがソ連との争点の中心になってきており、ソ連はずっとこのコレクションの一部たりとも持っていないと主張してきました。しかし最近新聞紙上をにぎわせたように、プリアモスの財宝がモスクワに現われ、現在ではその返還をめぐる交渉が行なわれています。また東アジアコレクションのうち十点は、一九五八年頃返還されていますので、残りもソ連で見つかるはずなのです。我々は、これが近いうちに発見されることを望んでいます。

― 日本というテーマで何か思いつかれることはありますか。

ベルリンの、これら統合の進む美術館が、一九九二年一月から、日本の三つの都市で順々に、ベルリンの東ア

― 入場者数の多いことをお祈りいたします。ありがとうございます。うございました。

（一九九一年六月二十八日）



シュリーマンは数多くの財宝を発掘した